

# 着眼大局



滋賀銀行 常務取締役  
今井 悦夫

## 5月の比良

10数年前までは時折、武奈ヶ岳(大津市)を目指してトレッキングをしていました。5月の山頂付近、咲き誇るシャクナゲの姿は壮大で、ブナの新緑ともマッチし、今でも強い印象が残っています。

シャクナゲは滋賀県の花に指定され、比良山系には至るところに群生しています。このシーズン、観賞目的で訪れる人も多くなります。

手元のガイド本でも、「比良のシャクナゲの美しさは、その背景のスケールの大きさが魅力で、比良の尾根を背にし、琵琶湖の水面に映えて、赤やピンクの花が風にそよぐ姿は、なんともいえない美しさです。湖の色が変化していくのに応じて、シャクナゲの花の色も刻々と変わっていくように見えます。」と紹介されており、確かに「スケールと変化」が魅力のポイントと実感します。

比良山系の頂上は大きく2カ所あり、「蓬莱山(びわ湖パレイ)」を目指すルートにはロープウェイがありますが、「武奈ヶ岳」を目指すルートのリフト、ロープウェイは、残念ながら10年前に廃止され、麓から歩くには相応の健脚が必要となります。

この時季になると、あの時のシャクナゲの群生と景観をまた見たいと思ひ起こします。

滋賀県では、豊かな文化、芸術、歴史、自然をもつ「滋賀」の魅力を「美の滋賀」づくりプロジェクトとして幅広い分野で発信されています。

まずは身近なところとして、滋賀にある多くの自然の美をできるだけ四季折々に楽しみたいと思っています。

### 県内データ あれこれ

### ● 平成24年経済センサス—活動調査 製造業調査結果

## 1事業所当たりの製造品出荷額等のトップは「化学工業」

### 86億円で、全産業の平均21億円を大きく上回る

今回は、県内製造業の1事業所当たりの規模を比較するため、1事業所当たりの「製造品出荷額等」\*を産業中分類別にみてみたい。

「平成24年経済センサス活動調査」によると、県内製造業の事業所数は3,062だった。製造品出荷額等の総額は6兆5,156億円で、「1事業所当たりの製造品出荷額等」の全産業での平均額は21億820万円となった。

産業別にみると、「化学工業」が85億7,828万円で、2年連続のトップ。事業所数は107で全24産業中10番目だが、甲賀市や日野町などに立地する「医薬品製剤製造業」の工場などが牽引し、平均を大きく上回ったとみられる。次いで「輸送機

械」の74億1,712万円、「情報通信機械」の57億8,793万円などが続いた。同じ産業区分で比較可能な平成20年から、以上

の3産業が4年連続で上位を占めている。

一方で、「繊維工業」や「金属製品」、「食料品」などの事業所数の多い産業は小規模な事業所が多く、出荷額の平均額は低くなっているようだ。

(株)しがぎん経済文化センター 中村 雅臣

